

武家の古都・鎌倉 連続シンポジウム
基調講演「要旨」

仏教寺院の昔と今

臨済宗建長寺派宗務総長 鎌倉学園理事長

高井正俊さん

建長寺
法堂
天井画
一部



鎌倉を世界遺産にということで、様々な取り組みが行われている。平成 17 年度には建長寺の保存管理計画が出来上がった。今回は、それを踏まえて、“仏教寺院の昔と今”を考え、鎌倉の寺のありかを確認めようということが話し合われた。

立場上、基調講演を行ったが、その柱は四つあった。

①建長寺と蘭溪道隆禅師。寺は今でいう大学であり、北条時頼が執権として国の舵取りをした時、禅の方法を使って、日本の国を興隆させようとした。建長寺は、日本の国を担って行く人材を養成する教育機関、文化情報を伝える場所であった。

②鎌倉は歴史的に見ると、為政者の作った寺と、信仰の力で出来た寺の二つがあった。前者は、八幡宮(寺)、寿福寺、建長寺、円覚寺、極楽寺。後者は、日蓮宗の寺・時宗の寺。中間点に高德院・光明寺がある。

③この時代の仏教の特徴として、各宗派が、意識的に人によって選択された。人間が生きようとする時、どんな手段・方法によるか、が問われる時代であった。たとえば、北条時頼と禅、時頼と律、日蓮の題目、法然の念仏、たくさんある仏教の教えを、人々が意識的に選びとった時代であった。

④鎌倉という都市は、京都を意識して、政治革命と宗教革命が行われた場所であった。古いものの再発見、律宗の戒律復興を元にした社会事業運動があり、新しい禅や題目の標榜が、興国の思想、国を正しく立てる思想として、提案された都市であった。

それらの鎌倉の仏教の昔を思って、今後のことをどう考えたらよいか。仏教寺院はどうあったらよいのか。

現在鎌倉には年間を通して 1700 万人の人が来る。自然の豊かさ、寺社仏閣をたずねに。この鎌倉の魅力を、寺に生活しているものは、先輩達が培ってきた財産を再発見、再活用していく。拝観される側から、寺社の建物や寺社の宗教的機能を使って、来る人に働きかける寺になる。



建長寺
山門

座禅・看経・写経・食の作法・傾聴・現在行われている鎌倉でらこや、いろいろな形で、鎌倉が再び宗教都市として復権していく。各宗各派のたくさんの寺社が、ここにある寺として、互いに補完しあいながら、自分の以っている方法で活動をしていく。これが大事。

鎌倉の寺社は、現在に生きる寺社として、化石となるのではなく、来山する人に働きかけをしていく存在でありたい。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

第1回「武家の古都」とは

中世の町並みが残るわけではない鎌倉が、なぜ「武家の古都」と呼ばれるのでしょうか。

鎌倉は、武家が初めて自ら造った政権都市であり、室町時代の中ごろまで、東国の中心として機能していました。その後、都市としては寂れましたが、徳川氏が江戸に幕府を開くと、鎌倉は武家政権発祥の由緒の地として大切に保護されました。そのため、都市の中心にあって武家政権の守護神とされた鶴岡八幡宮、武家が禅を学んだ建長寺などの武家文化を伝える場や、都市の基軸線となった若宮大路など、中世の文化と都市の遺産が守られてきたのです。

鎌倉は、近代以後も先人たちの努力により、約 700 年に及ぶ武士の時代を築いた「鎌倉の武家」が遺した文化や歴史的遺産と、それらを囲む景観が維持されてきました。このような中世都市の基本構造や趣きを現代まで伝えていることが、鎌倉が「武家の古都」たる所以なのです。